

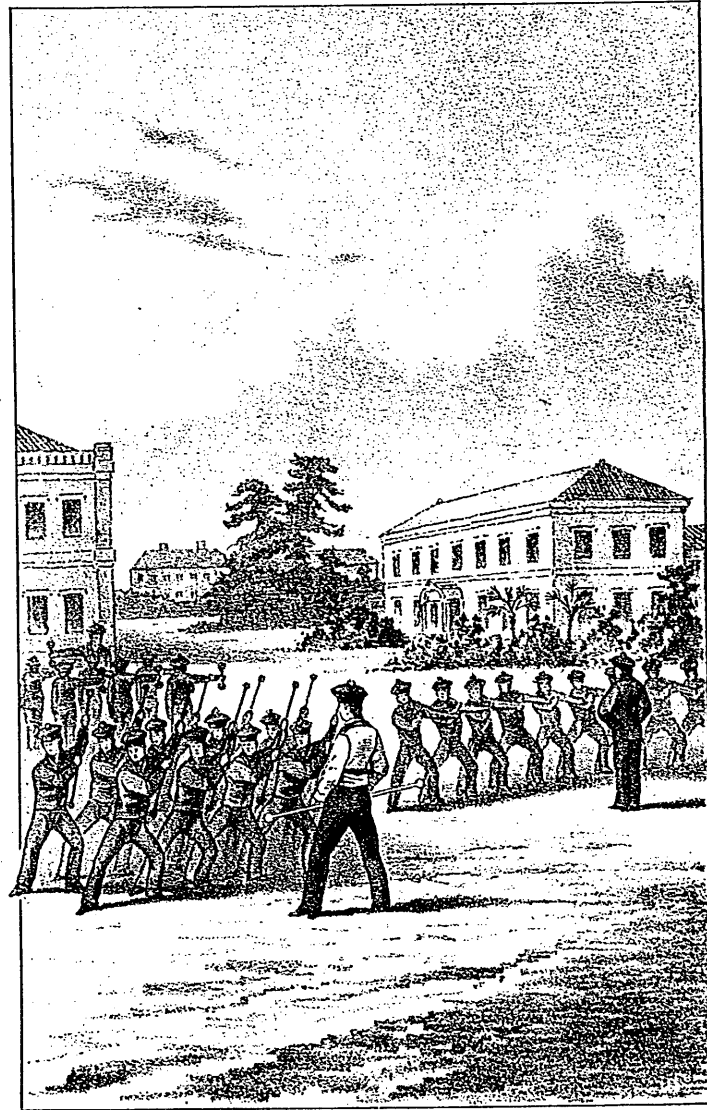
簡易第三讀本

興文社編

館藏委員會		6
一	〇	8
六	六	54
册	號	架

檢定合格本

K1208
41a
3



簡易第三讀本

第一 早く起きよ

夜は明けたり 早く

起きよ 雀鳥は

ねぐらをはなれ

たり。 鶏はとを

より出でて、急を



ひろつり。かま祢にまどふ朝が
不の花は、いと美しく開きたり。
早く起きよ。夜は明けたるぞ。

明。早起。烏。雞。

第二時

今ハ何時ナルカ。午前ノ六時ナ
リ。汝ハ時ノ數ヘカタヲ知レリ

ヤ。然リ、之ヲ知レリ。一晝夜ヲ
アハセテ一日トイフ。此ノ一日
ヲ二十四時間ニワカチテ、午前ヲ
十二時間トシ、午後ヲ十二時間ト
ス。午前トハ、晝ノ十二時ヨリ前
ヲイヒ、午後トハ、晝ノ十二時ヨリ
後ヲイフナリ。

今時。午前。之。午後。

第三 手紙



此の子は、友だち乃手紙を讀みて、
 返事を書かんす。
 字を讀むことを
 知らざれば、人乃手
 紙を讀みがたし。

字を書くことを知らざれば、自ら
 手紙を書まがたし。

友。手紙。返事。讀。自。

第四 字ト畫

此ノ子ハ、硯ニ向ヒテ、何ヲスルカ。
 硯ニ水ヲ入レテ、墨ヲスレリ。
 墨ヲスリテ、何ヲナサントスルカ。

字又ハ畫ヲ書クナラン。此ノ

子ハ甚ダ字ヲ書クコト

ヲ好ミ、又甚ダ畫ヲ書

クコトヲ好メリ。

字ハ事ノ由ヲ

シルシ、畫ハ物ノ

形ヲウツス。



硯。向。墨。甚。好。由。

第五 卵と楸

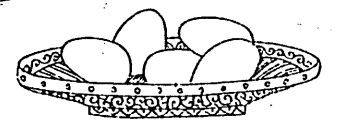
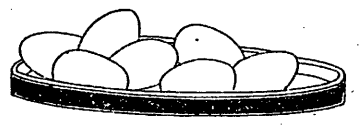
皿の上には、五つ乃卵あり。

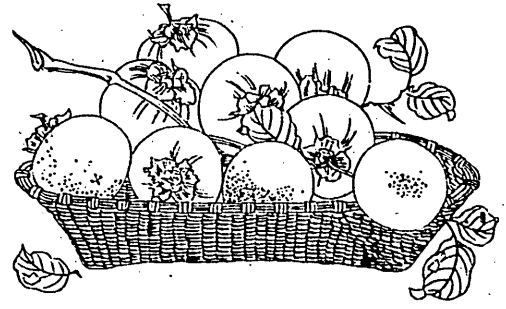
盆の上より、七つ乃卵

あり。此の五つの卵

に、七つ乃卵を加へな

ば、其の合せたる數は、





とある。

皿。盆。卵。加。合。引。残。

いくつとなる。籠
の中には、九つ乃梯あ
り。此乃九つの梯よ
り三つを引かば、其の
残りよる數ハ、いくつ

第六 臺所

臺所ニハ、竈アリ。竈ノ上ニハ、鍋

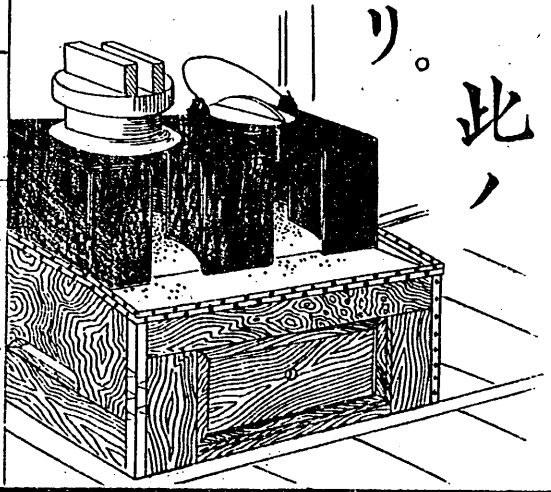
ト釜トヨカケタリ。此ノ

鍋ハ、鐵ニテ造リタリ。

此ノ釜モ、鐵ニテ

造リタリ。此ノ鍋

ト釜トノ蓋ハ、木ニ



テ造リタリ。此ノ鍋ト釜トヲカ
 ケタル竈ハ、何ニテ造リタルカ。
 此ノ鍋ト釜トヲカケタル竈ヲス
 エタル臺所ハ、何ヲスル所ナルカ。

臺所。竈。鍋。釜。鐵。蓋。造。

第七 善き生徒

此の子ハ、誠に善き生徒なり。學



校ニ往くとまきも歸
 るゆきも、道にて遊
 ぶことなし。馬車
 などよ阿るは、よけ
 て空ほすあり。今

此の生徒は、年たけよる人お向ひ
 て、てい祢いにあいをつせり。此

の年たけさる人ハ此の生徒比知
りたる人ならん。

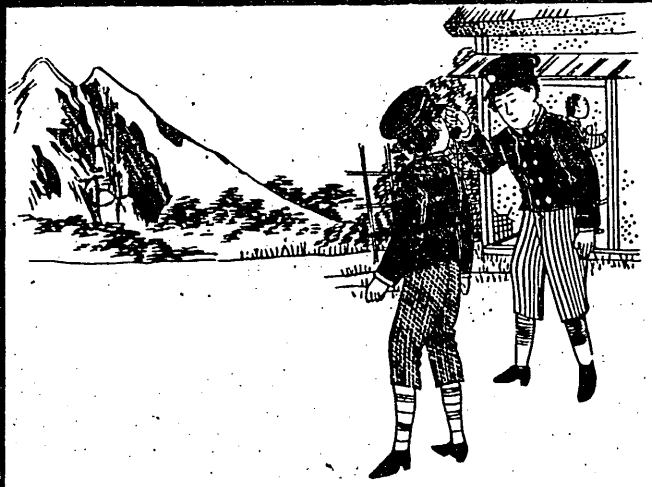
誠善生徒學校道往歸年。

第八 悪シキ戯

此ノ子ハ犬ノ頭ニ繩ヲ結ビタリ。
其ノ子ハ猫ノ頭ニ袋ヲハメタ
リ。彼ノ子ハ長キ竿ノ頭ニ袋ヲ

ツケテ木ニトマリ
タル蟬ヲ捕ラン
トス。此ノ三人
ノ子ハ善キ子
ナルカ。否
悪シキ子ナ
ラン。善キ子ハカカル悪シキ戯





今日ハ、學校ノ休ナレバ、吾ガ村ハ
 ツレノ山ニ遊バン。
 常ニ學校ニテ體
 操ヲスレバ、此ノ身
 ハ、甚ダ健康ナレド、
 休ノ日ニハ、ナホ能
 ク運動シテ、身ヲ強

クセントオモフナリ。身ニ病アリテハ、何ノ用ニモ夕チガタシ。
 體操。身。健康。運動。強。病。用。

第十一 山の景色

山の景色は、以てこちよし。青く茂る木の間を、白く見ゆるは、瀧なり。彼の瀧は、此の谷底に

落ち下り流れて
海み入るちらん。
彼の瀧は源は
さぞえて山の奥
ある處し。

景色。茂。瀧。谷底。落。流。源。奥。



第十二 姓名

汝ノ姓ハ何トイフカ。 林トイフ
ナリ。 汝ノ名ハ何トイフカ。 榮
トイフナリ。 汝ノ父ノ名ハ何ト

イフカ。 汝ノ母
ノ名ハ何トイフ
カ。 汝ニハ兄ア
リヤ、弟アリヤ、姉



アリヤ、妹アリヤ。アラバ、其ノ名ヲ悉ク此ノ塗板ニ書キテ見ヨ。

姓。林。榮。悉。塗板。

第十三 掃除

松梅は、雑巾を取りて、縁側をふき、
松竹ハ、蓆を取りて、庭さき、枝はけ
り。此の二人の女子を甚どまされ

いずまに、常に
家の内外を掃除
せり。家此内外
を掃除するは、誠
に善事なり。

梅。雑巾。取。縁側。蓆。掃除。

第十四 洗濯





才松ハ、鹽ニ水ヲ汲ミテ、洗濯ヲセ
 リ。鹽ノ側ニハ、シヤ
 ボンヲ置キタリ。コ
 レハ、衣服ノ垢ヲ落サ
 ンタメニ使ヒタルナ
 ラン。衣服ノ垢ヅキ
 タルハ、能ク洗フベシ。垢ヅキタ

ル衣服ヲ著ルトキハ、身ノタメニ
 宜シカラズ。

鹽。汲。洗濯。置。垢。使。著。宜。

第十五 日記帳

太郎は、父より貰ひたる紙みて、日
 記帳を作りたり。日記帳には、其
 の日此事を記す。太郎は、多ぶ今

でき上りたる帳面よ、左の如く記
したり。

三月一日 月曜 雨

一 午前八時より學校へ往く
一 午後三時に學校より歸る

太郎は甚だ心が々の善ま子なり。
其の日乃事を其の日此中ふ記

し置ちば後の多よ里とあること
多し。

太郎。貫。日記帳。帳面。如心。

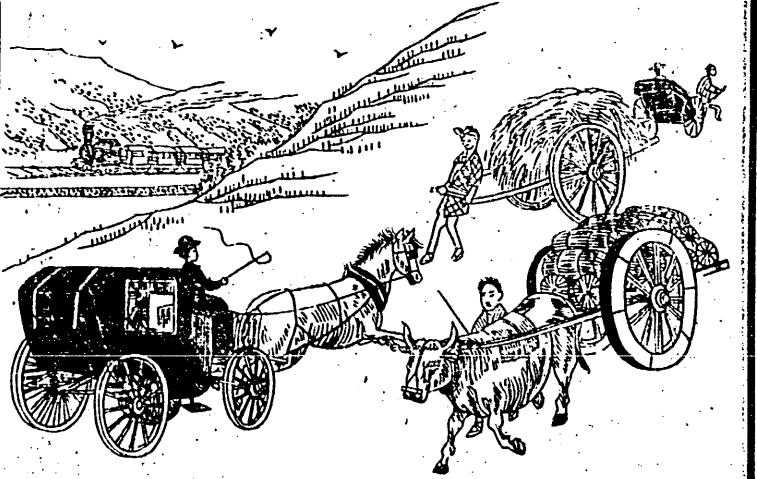
第十六 縫物

才花ハ、指ニ指環ヲハメ、針ノ目ニ
絲ヲトホシテ、衣服ヲ縫ハントス。
才花ハ、學校ニテ、縫物ノ仕方ヲ

覺エタレバ常ニ母ノ
 手ツダヒヲセリ。
 才花ノ側ニハ何が
 アルカ。尺ト鋏ト
 絲マキトアリ。

指環。針。縫物。仕方。覺。尺。鋏。

第十七 車



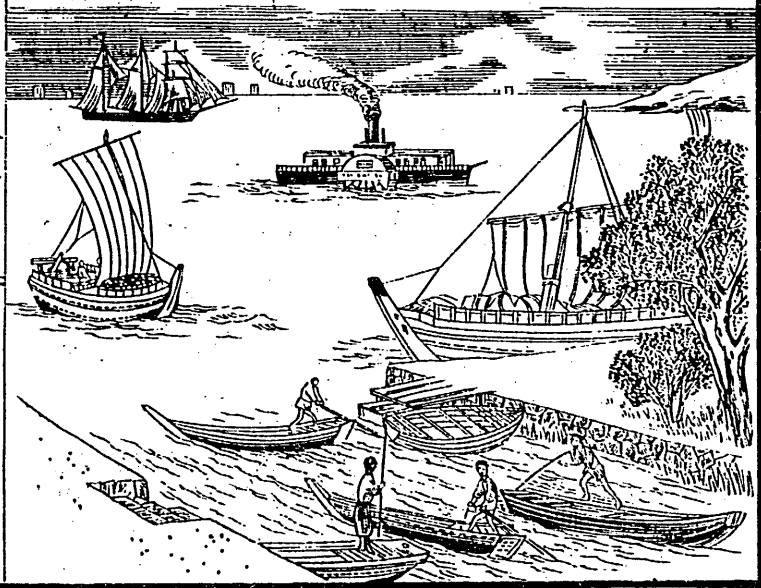
人を載せて、人の輓
 く車あり。荷物を
 積みて、人の輓く車
 あり。人を載せて
 馬に輓るす車あ
 り。荷物を積こ
 牛に輓るる車あ

り。はるかふきはまき山の下ふ黒
 き煙をあげたるは蒸氣車ならん。
 蒸氣車はあはれたの人と荷物と
 を載せてをか城走ること最を早
 し。

載。輓。荷物。積。煙。蒸氣車。走。

第十八 舟

此ノ川ハ彼ノ海
 ニ連レリ。川ニ
 モ海ニモ舟多シ。
 棹ヲサス舟ア
 リ。櫓ヲオス舟
 アリ。帆ヲ懸ケ
 タル舟アリ。煙



ヲ揚ゲタル舟アリ。帆ヲ懸ケタルハ、帆前船ナルベク、煙ヲ揚ゲタルハ、蒸氣船ナルベシ。吾モ大キクナリタラバ、蒸氣船ニテ海ヲ渡ラン。

連。棹。櫓。懸。揚。帆前船。蒸氣船。渡。

第十九 釣と網



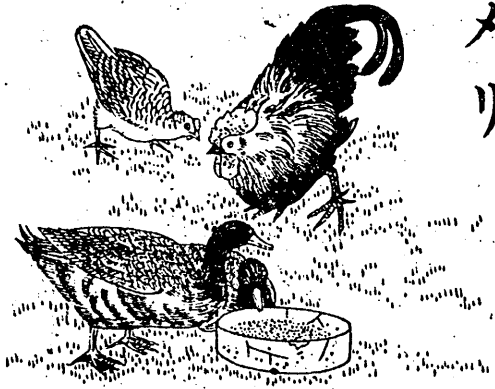
此の釣をする男は、竿の頭に絲を結び、絲の頭を針を挿し、針の頭を餌をさして、水に入ると、此の絲より、魚の來

りて餌を食ふとき、此の曲りたる針の頭を懸るべし。見よ、か志およの網を打つ男あり。彼の網は目々、細けきは入りたる魚は出づること能いざらん。

釣。餌。來。食。曲。網。打。細。

第二十 鶏ト鶩

吾ガ家ニハ、鶏ト鶩トヲ飼ヘリ。
 鶏モ鶩モ好キ卵ヲ産メリ。
 鶏ハ、卵ヲ孵スコトヲ知レドモ、鶩ハ、卵ヲ孵スコトヲ知ラズ。
 サレバ、鶩ノ卵ヲモ、鶏ニ抱カセテ、孵サスルナリ。



汝ハ、雞ノ雌ト雄トヲ知レリヤ。
 然リ、之ヲ知レリ。雄ノトサカハ、
 大キク、雌ノトサカハ、小サシ。
 ノ尾ハ、長ク、雌ノ尾ハ、短シ。雄ハ、
 時ヲ告グレドモ、雌ハ、時ヲ報ゲズ。
 鶩。飼。産。孵。抱。雌。雄。尾。告。

第二十一 四季

此の處
 に四枚
 此畫あ
 り。(イ)
 は、つみ
 草よし
 て、口は、



螢がりなり。(ハ)は、茸の里ふして、
 (ニ)は、雪ころろりあり。津と草は、
 春の遊あるづく、螢の里は、夏は遊
 遊ぶべく、茸がりは、秋の遊なるべ
 く、雪未詠がしは、冬の遊ある趣し。
 一年の中ふて、春夏秋冬の四季
 あり。春は暖にして、夏は暑く、秋

と、涼しく、冬は寒し。

杖。螢。茸。雪。季。暖。暑。涼。寒。

第二十二 老人



此ノ人ハ、眼鏡ヲ懸
 ケタリ。此ノ人ハ、
 杖ヲツキタリ。此
 ノ人ノ腰ハ、曲リテ、

弓ノ如シ。此ノ人ノ髮ノ毛ハ白クシテ、雪ニ似タリ。此ノ人ハ老人ナラン。老人ハ、汝ヨリモ早ク生レテ、汝ノ未ダ見モセズ聞キモセ又事ヲ多ク知リタリ。汝ハ老人ノ話ヲ聞クコトヲ好メリヤ。汝、老人ノ話ヲ聞クコトヲ好マバ、

老人モ亦汝ニ向ヒテ話スコトヲ好ムナルベシ。

眼鏡。杖。弓。髮。似。老人。未。聞。話。亦。

第二十三 尺

此の筆の長さは、四寸五分にして、此の布の長さハ、二丈六尺あり。物の長さを測るよむ、尺を用ふ。

尺比目の稱は、一分を十ふて、一寸
 といひ、一寸を十にて、一尺といひ、
 一尺を十ふて、一丈
 といふ。尺の種類
 ふて、曲尺と鯨尺と
 ありて、曲尺は、鯨尺
 よりも短し。きれ



ば、曲尺の一尺は、鯨尺比八寸ふ當
 れり。此の筆乃長さは、曲尺にて
 測り、此の布比長さは、鯨尺ふて測
 り多り。

筆。布。寸。分。丈。測。稱。種類。曲尺。鯨尺。

第二十四 拵

今此ノ油ヲ量リタルニ、八升五合

アリ。又此ノ麥ヲ量リタルニ、一石ニ斗アリ。物ノカサヲ量ルニハ、枘ヲ用フ。枘目ノ稱ハ、一合ヲ十二テ、一升トイヒ、一升ヲ十二テ、一斗トイヒ、一斗ヲ十二テ、一



石トイフ。枘ノ種類ニハ、一合枘アリ、一升枘アリ、一斗枘アリ。

油。量。升。麥。斗。枘。

第二十五 五つの味

吾は、甚だ甘き物をなめたり。砂糖あるか。然り。吾は、甚だ酸っぱい物を食ひたり。梅ぼしなほり。

然り。吾も甚だ苦き物哉食むたり。ぬまは葉ある。然り。吾は甚だ辛き物を食ひたり。たうがら—あはか。然り。吾も甚だ溢き物を食むる。多ぶちにやめたり。未だ熟せざる柿の實ある。然り。砂糖は甘く、梅は—の酸

く、ぬまの葉は苦く、たうがら—は辛く、未だ熟せざる柿は實は、溢し。吾は、おれおて、五つの味を覺えたり。

甘。砂糖。酸。葉。苦。辛。溢。熟。味。

第二十六 文字ノ種類

汝が既ニ學ビタル文字ノ種類ヲ

示スベシ。第一讀本ニテ學ビタルハ、ヤ、イ、ヌ、コ、ノ類ヲ片假名トイヒ、みの、かさ、あり、はちノ類ヲ平假名トイヒ、第二讀本ニテ學ビタル人子、大小、山川ノ類ヲ漢字トイフ。此ノ三種ノ文字ヲ能ク覺ユレバ、万ヅノ用ヲ辨ズベシ。漢字

ノ數ハ、多ケレバ、ナホオヒオヒニ掲ゲ出サン。

既。文字。示。片假名。平假名。漢字。辨。掲。

第二十七 楷行草

漢字には、楷、行、草の三體あり。楷書は、多く書籍に用ひ、行書と草書とは、多く手紙に用ふ。今、太郎は

左に手紙を次郎におくりたり。
 午後より湯出で下されたく候
 次郎は、もづちに左の返事をおくり
 たりたり。

午後より系といはれべく
 太郎の書きたる漢字は行書にて、
 次郎の書きたる漢字は草書あり。

此の各に漢字或三體に書きたる
 べきは左の如し。

楷	行	草
午後	午後	午後
御出	湯出	湯出
下候	下候	下候
參上	參上	參上

楷。行。體。書籍。次郎。御出。候。參上。各。

第二十八 變體平假名

簡易第三讀本
東京興文社

簡易第三讀本終

X12.08

簡易三ノ卷

明治二十一年六月十日印刷
同 年同月五日出版
同 年九月十五日訂正再版
一ノ卷 五錢
二ノ卷 五錢五厘
四ノ卷 六錢
五ノ卷 七錢

編者 興文社

發行兼印刷者 東京府平民 石川活三

國民の教育 發行所 發兌

發行所 發兌 同 石川教育書房

東京馬喰町三丁目一番地
日本橋區馬喰町三丁目番地
興文社

簡易第四讀本

興文社編

育會館	
一	6
〇	8
六	57
册	號
架	國

檢定合格本

K120.8
41a
4